

<平成30年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

埼玉県 狭山市立入間川中学校

Olympic
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会



平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を受け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

■期 日：平成30年10月25日（木）

■ク ラ ス：2年2組（31名）

■オリンピアン：小菅 寧子 先生（セーリング）



■授業のながれ：運動の時間（1時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



・自己紹介の後、しっかりと声を出して授業に取り組んでほしいと伝える。今日はオリンピックバリュー（エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト）を学び、オリンピックがなぜこれほど長く続いているのか、なぜ世界中の人がオリンピックを目指すのかを考え、日常生活に役立ててほしいと授業の目的を説明。
・セーリングスクールで教えている準備体操やウォーミングアップを行い、タッチ鬼を実施。

3. 主運動



・2班ずつ3チームに分かれて大縄跳び（90秒×3回）を実施。1回目は8の字跳び、2回目は全員跳び、3回目はチームでどちらかを選んで行った。8の字跳びは跳んだ回数を、全員跳びは跳んだ数に人数を掛けた数を得点とし、引っかかったら0から数え直し一番高い得点を発表した。
・各回終了後作戦タイムを設け、3回目終了後に各チームに立てた作戦を確認したところ、「ゆっくり跳んで、引っ掛からないように気をつけた」「楽しむことを心掛けた」「跳ぶことに集中した」と発表される。

4. まとめ



・チームで作戦を立てて協力し、楽しみながらも一生懸命に、ルールを守って取り組む、という意識が伝わってきた。そして、冒頭に伝えた約束事をしっかりと守ることができていたと総括し、皆で拍手を送り合う。運動の時間はオリンピックバリュー（エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト）に則した3つの約束事のもとに取り組んだが、オリンピックバリューが皆の日常生活にどのようにつながっているのかを座学の時間に学んでいくと予告し、授業を終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・自己紹介として映像を見せながら、ウインドサーフィンのルールや競技の特性を説明し、オリンピックバリューについて学んでいくと授業の目的を確認。
- ・3つのオリンピックバリューについて、「エクセレンス＝卓越、一生懸命頑張る」、「フレンドシップ＝友情、協力、仲間」、「リスペクト＝敬意/尊重、ルールを守る」と解説し、自身の経験を踏まえて説明した。

3. グループワーク



- 発問：運動の時間を振り返って、感じたことや実践したこと(作戦タイムで考えたことや頑張ったこと等)を書き出してみよう。
- 発表：失敗してもあきらめないことが大切、次に向けて作戦を立てて工夫することが大切、積み重ねが夢の実現につながる(エクセレンス)、仲間と協力することが大切、得意不得手をカバーしあうのがチームワーク(フレンドシップ)、技術だけでなく精神も鍛える、自分自身を信じるのが大切、前に進む勇気が必要(リスペクト)

4. まとめ



- ・オリンピック教室を通じて、日常生活の中でオリンピックバリューを見出せることや、何事にも諦めずに向かう姿勢、仲間を信じる、ルールを守り一生懸命取り組む大切さ等、様々なことを学んでもらえたと思う。今日学んだオリンピックバリューは、皆が大人になる過程で素晴らしい人間力を身に付け、夢を叶えるためにはとても大切なことである。オリンピック教室で学んだことを忘れずに、今後様々なことに取り組んでほしいと伝え、授業終了。

実施内容

- 期 日 : 平成30年10月25日 (木)
- ク ラ ス : 2年1組 (31名)、2年3組 (32名)
- オリンピアン : 岩崎 恭子 先生 (水泳・競泳)



■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、今日はオリンピックについて学び、オリンピックの考え方が身近にあることを知ってほしいと授業の目的を確認。オリンピックバリューを「エクセレンス=ベストを尽くす」「フレンドシップ=チームワーク」「リスペクト=フェアプレー」と説明し、座学の時間に詳しく学んでいくが、運動の時間でも意識して取り組んでほしいと伝え、準備体操に移る。
- ・ストレッチを行い、タッチ鬼を実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・2班ずつ3チームに分かれて8の字跳び (90秒×3回) を実施。
- ・引っ掛かったら1から数え直し、制限時間の中で、最も多く続いた回数を競うことをルールとした。各回終了後に作戦タイムを設け実施した。
- ・3回目終了後、結果と作戦内容を発表。1組は全チームが最も良い結果を出すことができ、「跳ぶ人が跳びやすいよう、床につくぐらい低く縄を回すようにした」「縄を短くした」等の作戦が発表された。3組は記録が落ちてしまったチームがあり、そのチームからは「縄を速く回したが、速すぎてしまった」との要因が、他のチームからは「回し手がリズムをとって回数を数える役を担当した」「楽しむことを心掛けた」等の作戦がそれぞれ発表された。

4. まとめ



- ・1組では、各チームともにチームワークが良く、冒頭に伝えたオリンピックバリューをしっかりと意識しながら取り組んでいたこと、3組では、結果が良くても悪くても、その結果を振り返り、分析して何かを得て、次の機会に活かすことが大切であること、と総括した。座学の時間にはさらに詳しくオリンピックバリューについて学んでいくので、皆にも考えてほしいと予告し、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・バルセロナ大会の映像を見せて自己紹介。
- ・「エクセレンス＝卓越、一生懸命頑張る、全力で取り組む、あきらめない、努力する」、「フレンドシップ＝友情、お互いを理解する、仲間、協力」、「リスペクト＝敬意／尊重、ルールを守る、フェアプレー、思いやり、感謝」とし、自身の経験を踏まえてオリンピックバリューについて説明した。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 個人ワーク発問：ロードレース(マラソン大会)に向けて目標を考えてみよう。
 グループワーク発問：個人ワークを共有し合い、目標を達成するために何ができるか考えてみよう。
 発表：「昨年の結果よりも記録も順位も上げるために、しっかりと練習に取り組み最後まであきらめない」「良い記録を出すために速い人の真似をする」「1位を獲得するために毎日の練習で気を抜かない」「マラソンが嫌いでも前向きに一生懸命取り組む」「最後まで走り切る体力をつける」

4. まとめ



- ・自分が成長する上で、自分で考え、意見を持つことは大切であり、相手の意見を聞き、様々な考え方を取り入れることも大切である。今日の授業を通してオリンピックバリューは日常生活の中に存在することを知ってもらえたと思う。2年後には東京2020大会が開催されるが、埼玉県でもサッカーやゴルフ、バスケットボール、射撃等の競技が行われるので、オリンピックを身近なものに感じてほしい。今日学んだオリンピックバリューを今後の生活に活かせてもらえたら嬉しいと伝え、授業終了。



■ 集合写真
2年1組



2年2組





■ 集合写真
2年3組



■ 記念品贈呈
2年1組



2年2組



2年3組



■ 修了証贈呈

